

和歌山県勤労者山岳連盟会員のみなさんへ

－新型コロナウイルス感染拡大に対する県連盟からの呼びかけ－

約4ヶ月前、2020年の幕開けの頃には予想だにできなかった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私達の日々の生活に大きな影響を及ぼしています。

4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大されたこと、4月20日に登山4団体の共同声明（別紙参照）が出されたことなどを受けて、和歌山県連盟として当面の登山行動、労山活動について、以下の指針を示すことにしました。

1. 新型コロナウイルスに感染していても無症状の人が存在することなどを踏まえ、登山行動に際しては感染防止について細心の注意を払い行動する。具体的には、
 - ①アプローチ（居住地と登山行動開始・終了場所の間）での公共交通機関の利用を避ける。また、自家用車の乗り合わせは、「三密（密閉・密集・密接）」の状態にならないよう1台当たりの乗車人員を考え、換気を充分行う。なお、アプローチ途中でのコンビニ・道の駅などの立ち寄りが必要最小限にする。
 - ②安全な距離（約2mのソーシャルディスタンス）を確保する。確保できないことが想定される山小屋や複数人でのテント泊は避ける。
 - ③会話時はマスクを着用する。
 - ④本人及び同居家族に発熱の継続など体調不良がある場合は、山行への参加を控える。また、山行当日は朝の検温をすすめる。
 - ⑤長距離の移動や車中泊など、身体に負担がかかる行動は避ける。
 - ⑥山行後の打ち上げなどの会食は行わない。
2. 労山活動に関わる会議等では、「三密（密閉・密集・密接）」を避ける工夫をする。感染拡大状況によっては、延期・中止の判断もためらわずに行い、代替りの手立てを取る。
3. 新型コロナウイルス感染が収束し、以前のように登山行動ができるようになる時に備えて、会員に体力の維持向上の取り組み（例：室内での体操、野外でのウォーキング）をすすめる。その際、ウイルス感染防止の対策を取ることを心がけ実行することもあわせて呼びかける。

以上、不十分な点もあると思いますが、各会の活動において上記指針やテレビ・新聞・各種団体からの情報を考慮いただければ幸いです。また、各会での新型コロナウイルス対応の取り組みを県連盟に寄せていただき、交流できればと考えています。

収束時期が見えない重苦しい状況ですが、私達の自覚的な行動と協力によって、この困難は克服されるとの確信を持っていきたいと思っております。1日でも早く、仲間と心置きなく山を楽しめる日が来ることを願います。

2020年4月26日

和歌山県勤労者山岳連盟 常任理事会